

九州の星  
Star of Kyushu

| 92 |

頑張るあなたを  
応援するコーナーです

# 地域医療のために今できることを。

本誌「トップに聞く」(2020年10月号)で長崎大学の学長在任中に登場した河野茂さん。2023年9月、2期6年間の任期を終え、その去就が注目される中、意外にも臨床の非常勤医という道を選びました。なぜ今、再び臨床の現場に戻る決断をしたのでしょうか？

河野さんを訪ね、これまでの歩みも併せて深く掘り下げました。

国立大学法人長崎大学  
名誉教授 前学長  
学長特別顧問

河野茂氏  
こうの しげる



▲お母様と3兄弟(中央で勉強しているのが本人)



▲ふっくらして可愛い3歳の河野さん



▲3番目の弟が生まれる前の家族写真

## 学長退官後は 地域医療のために

私は73歳で6年間務めた長崎大学の学長を退官しました。学長の前は長崎大病院院長や医学部長も務めていましたので、退官後は企業や団体から経営や管理職についてほしいというお声をいただきました。しかし、私は「もう常勤職には就かない」と宣言し、断りました。なぜなら、「臨床医として地域の人に向き合いたい」という思いがあったからです。

私が生まれ育ったのは、長崎県のほぼ中央、焼き物で有名な波佐見町です。父は第二次世界大戦中パイロットをしていましたが、終戦後は地元に戻り中学の教師になりました。母は神戸女子薬学専門学校(現…神戸薬科大学)を卒業して薬剤師になりました。当時は女性で薬剤師にまでなる人は少ない時代でした。教育熱心な母は薬局の仕事が忙しい中、私たち3兄弟の勉強を見てくれました。

中学校では数学や理科が得意でした。また、英語も好きで、この頃からラ

ジオの基礎英語を毎日欠かさず聴くようになり、「将来は外国に行ってみたい」と憧れを抱くようになりました。

高校は長崎県立佐世保南高等学校へ進学しました。高校生になると医者への道を考えるようになりました。というのも、父方の祖父が医者で、地元で河野医院を開業していたからです。祖父の長男は医者になったものの戦死し、三男である私の父は軍人になったので医院を継ぐ人がいなかったのです。

## 開業医になるはずが 感染症の研究の道へ

開業医になるために長崎大学医学部に入り、大学院卒業後は留学も経験しました。30代半ばで、長崎大学の教授から「教員として大学に戻って感染症の研究を一緒にしないか」と声をかけられました。大学に戻ったものの、本来、感染症は細菌学やウイルス学を学んだ人が研究すべき分野です。門外漢の私ができることは何だろうか。考えた先が、真菌(カビ)の感染症でした。まさにゼロからのスタートでし

たが、覚悟を決めて取り組みました。おかげさまで感染症の研究を続けて40年以上になりますが、多くの成果を残すことができました。

教授になった後は、医学部長や長崎大病院院長を歴任し、長崎大学長を務めました。

※学長時代の取り組みは「トップに聞く」バックナンバーをご覧ください



学長時代は、学生との対話を大切に、月1回、学生と生協の食堂でランチを楽しみました。コロナ禍で学生と語り合えない時期は、学生に向けてメール



▲米国ニューメキシコ州立大学医学部へ留学。右端が河野さん

でメッセージを送りました。退官する時にはたくさんの方が集まって門出を祝ってくれたことがいい思い出です。

## 臨床医として幅広く診療

地元に戻って開業医になることは叶いませんでしたが、一番下の弟が波佐見で開業医になつています。「学長退任後は臨床医として地域の人の向き合いたい」と思っていたところ、医学部の後輩で北松中央病院（長崎県佐世保市）理事長の東山康仁（ひがしやま やすひと）さんから「外来を担当しませんか」と誘いがあつたのです。現在では、2週間に2日、長崎市から通つて診療を担当しています。わからないことがあつたら長崎大学の後輩教授に電話一本で聞いています（笑）

また2週間に半日、長崎市内の長崎百合野病院でも外来を診ています。私の専門は呼吸器内科や感染症ですが、外来では生活習慣病をはじめ、幅広く一般内科を診ています。

それからレメディ・アンド・カンパニー株式会社では顧問として、公益財団法人

人日本感染症医薬品協会では常務理事を務めています。感染症学の知見が生かせるのでありがたいです。

## トレーニング、ゴルフ、書道、歌、趣味も充実

趣味が多いので忙しい日々を送っています。中学時代に始めたラジオの英語学習は今も継続しています。今はラジオアプリがあるので、1日数時間の放送を1.5倍速で聞いています。

医学部長時代シングルプレーヤーだったこともあり、大のゴルフ好きです。30年以上前から国内外のコースでデータを収集し、スコアの改善に役立てています。

書道についても、ほぼ毎日書いていて、週1回、先生のところで見てもらっています。年に2回、書道展に出品します。

歌うことも大好きで、ポピュラーミュージックが専門です。東日本大震災をきっかけに福島から長崎に移住された奥山典子（おくやま のりこ）先生のもとで2週間に

1回、ボイストレーニングを受けています。長崎大学長時代にはミュージックビデオを作成しYouTubeにアップしました。

私の人生は傍から見ると順風満帆に見えるかもしれませんが、しかし、自分のなかでは紆余曲折ありました。だからこそ言えるのは、人生はいろいろ経験した方が面白いです。夢を持っている人は挑戦してほしい。世の中はうまくいかないことが多いです。挫折や失敗してもいい。夢や挑戦する気持ちはずっと持ち続けてほしいです。

## KOHNO Shigeru

1950年生まれ。長崎県波佐見町出身。医学博士（長崎大学）。1974年3月長崎大学医学部卒業、同大学医学部附属病院第二内科入局。1980年同大学大学院（病理学）卒業後、1982年まで米国ニューメキシコ州立大学医学部病理学教室に留学。帰国後、長崎大学医学部附属病院に戻り、佐世保市立総合病院、長崎市立病院成人病センターでの勤務を経て、1985年長崎大学医学部助手、1990年講師、1996年教授となる。2000年同大学大学院医学研究科感染分子病態学講座教授。2006年長崎大学医学部長、2009年理事・病院長、2014年理事・副学長を歴任し、2017年10月から2023年9月まで長崎大学学長。専門は呼吸器感染症。現在は、非常勤医として北松中央病院や長崎百合野病院で外来診療を行いながら、レメディ・アンド・カンパニー株式会社の顧問、公益財団法人日本感染症医薬品協会の常務理事も務める。

